

原 著

日中の音楽教員養成に関するカリキュラムについて

一岡山大学, 東京藝術大学, 東北師範大学の事例分析をもとに一

早川倫子(岡山大学大学院教育学研究科) 山本宏子(岡山大学大学院教育学研究科)

近年, わが国の教員養成においても日本人学生の中国への留学, そして中国人学生の日本への留学が, 増加傾向にあるのは周知の通りである。そのような中で, 日本と中国の音楽教員養成に関するカリキュラムの構造が異なっているために, 留学生らにとって, 希望する研究内容と実際のカリキュラムが適さないという問題等が生じている実態がある。

筆者らは, 中国の教員養成に関する音楽カリキュラムおよび教育内容の実態を調査するために, 東北師範大学内にある音楽学院を訪問した。それらの調査内容を踏まえ, 本研究ではそれぞれ構造やシステムの違う岡山大学教育学部・教育学研究科(音楽教育), 東京藝術大学音楽学部・音楽研究科, 東北師範大学音楽学院を事例として取り上げ比較することによって, 前述した問題について検討を行った。

キーワード: 音楽教員養成, カリキュラム, 日中, O-NECUS, 留学生

I. はじめに

近年, 教員養成系大学においても日本人学生の中華人民共和国(以下, 中国と略す)への留学, そして中国人学生の日本への留学が増加傾向にあるのは周知の通りである。岡山大学においても岡山大学-中国東北部大学院留学生交流プログラム O-NECUS (オネックス, Okayama University - North East China Universities Platform Graduate Student Exchange Program) に関連して, 多くの学部へ渡って東北師範大学をはじめとした中国の複数の大学と連携し, 交換留学などの様々な制度を確立してきている。

そのような社会的背景の中で, わが国の音楽教員養成に関わる大学においても, 日本と中国の音楽教員養成におけるカリキュラムの構成が異なっているために, 中国の留学生らにとって, 希望する研究内容と実際のカリキュラムが適さないという問題等が生じている実態がある。

筆者らは, 2009 年 10 月に O-NECUS プログラムに関するシンポジウムで訪中した際, 中国の教員養成に関する音楽カリキュラムおよび教育内容の実態を調査するために, 東北師範大学内にある音楽学院を訪問した。師範大学の中にありながら, その音楽学部(音楽学院)のカリキュラムの内容は, どちらかという日本の音楽大学に近い構造を持っているということがわかった。

本研究では, それらの調査内容を踏まえ, それぞれ音楽教員養成の構造やシステムの違う岡山大学教育学部・

教育学研究科(音楽教育), 東京藝術大学音楽学部・音楽研究科, 東北師範大学音楽学院を事例として取り上げ, カリキュラムを比較する。さらには音楽学習者の卒業後の進路についても検討することによって, 前述した問題について考察を行う。

II. O-NECUS プログラムに関連して

現在, 岡山大学教育学部・教育学研究科の音楽教育講座においても, 1 名の大学院生が 2009 年度に O-NECUS プログラムを利用し, 中国の楽器についての研究のため東北師範大学の音楽学院に短期留学を行った。数ヶ月の留学ではあったが, 中国の民族楽器の演奏方法を習得し, 帰国後には講座行事の定期演奏会において発表を行った。多文化な音楽教育が求められている今日の日本の音楽教育分野にとっても, 現地で本物の楽器の奏法について学んでくることができるといった経験は, とても重要なことと考える。

また, 2009 年 10 月末には東北師範大学音楽学院から 1 名の大学院生が 1 年間の予定で留学してきている。テーマは, 日本と中国の音楽教科書の比較研究であり, 多くの中国の教科書を持参してきて分析を行っている。このような研究や資料は, 日本の音楽教育の発展にとっても, 貴重な情報や資料になると考えられる。

はじめに述べたように, O-NECUS プログラム等を利用した交換留学生が増加する中で, 日本と中国の音楽教

員養成におけるカリキュラム等について、それぞれの理解を深めておくことは今後益々必要なことである。

Ⅲ. 各大学の音楽関係カリキュラムの概要と比較

1. 各大学の音楽関係カリキュラムの概要

ここでは、教員養成系大学の事例として岡山大学教育学部・教育学研究科(音楽教育)を、藝術大学・音楽大学の事例として東京藝術大学音楽学部・音楽研究科を、中国の音楽教員養成に関して、東北師範大学音楽学院を事例として取り上げる。

なお、各大学の音楽関係カリキュラムの概要については、本論のおわりに示す各大学の案内パンフレットやホームページの情報をもとにしている。さらに、東北師範大学の内容に関しては、東北師範大学音楽学院の金土友教授と留学生へのインタビューを参考にしている。

①岡山大学教育学部・教育学研究科(音楽教育)

岡山大学教育学部では、小学校教育コースおよび中学校教育コースの中で、それぞれ音楽を専修できるようになっている。教員養成に特化した学部であり、ここでは卒業要件に必要な単位を修得することによって、小学校教員免許状または中学校教員免許状(音楽)が取得できるようになっており、卒業と同時に教員免許状を取得している。このように岡山大学教育学部では教員の免許取得すなわち、教員養成が主たる目的であるため、音楽専修においても音楽教員になるための授業科目が様々な幅広く設定されている。また、音楽教育に関わるそれらの基礎的で幅広い科目を履修しながらも、特にどの分野(音楽学、音楽教育学、声楽、器楽、作曲)を中心に研究を深めていくかということも、ゼミの選択によって選ぶことができる。

教育学研究科(修士課程)においては、教科教育学専攻の中に音楽教育コースが設けられている。音楽教育および芸術音楽に関連した研究課題をもって入学し、個々の研究成果をあげていく。そして、学校をはじめ様々な場で、その研究成果を還元することのできる人材の育成を目指している。やはり、修士課程においても、音楽家・演奏家を育成するというよりは、教育的視点をもった音楽関係の研究を深めていく方向でカリキュラムが組まれている。また、所定の単位を修得すれば、修士課程修了と同時に音楽教員の専修免許が取得できる。近年の修了者をもみても、修了後に中学校や高等学校の音楽教員になる場合が多く、より深い専門知識を持った音楽教員の育成が中心であるということができよう。

②東京藝術大学音楽学部・音楽研究科

東京藝術大学音楽学部では、作曲科、声楽科、器楽科(ピアノ、オルガン、弦楽、管・打楽器、室内楽、古楽)、指揮科、邦楽科、楽理科、音楽環境創造科という専門分野に分かれている。周知のように、国立大学の中でも唯一の音楽を専門とする学部であり、「音楽についての深い学識と高い技術を受け、音楽の各分野における創造、表現、研究に必要な優れた能力を養い、社会的要請に応える人材の育成」を目的とし、「優れた表現者(演奏家、作曲家、指揮者など)や、広く社会の文化発展に寄与し核となる人材の養成」を目指している。

このように、それぞれの専門を深く履修する中で、中学校教員免許状(音楽)を希望する学生は、教職科目を履修し規定の単位を修得すれば、免許状を取得することもできる。

一方、音楽研究科(修士課程)からは、学部のような専門実技系の研究分野だけでなく、音楽教育という分野が音楽文化学研究領域の中にも含まれる。これもまた、教員免許状取得を目的としたものではなく、「人間と音楽の多様なかかわりを教育的な視点から追究する研究者・実践者を育成する」ことを目的としている。その研究対象は、学校教育だけでなく、専門教育、幼児教育、障害児教育、社会教育などの多岐にわたっている。また、音楽教育研究論文のほかにも専門実技の研鑽が課せられている点も特徴である。さらには、その後の進路として博士後期課程も用意され、修士課程での研究を発展・深化させながら、各自のテーマに基づいて研究を遂行していくことができる。修了後は、教員養成系大学や音楽大学等の音楽教育担当教員として従事したり、小学校や中学校、高等学校、特別支援学校等の教諭として従事している。また、演奏家や作曲家として活躍している人もいる。

③東北師範大学音楽学院

東北師範大学は、師範大学という名称をもちながらも教員養成に特化した単科大学(日本でいう教育大学)ではなく、総合大学のようなものと考えたほうが相応しい。表1のように大学の中にさまざまな分野の学院(日本の学部には該当するもの)があり、その中には、教員養成機能を持つ学部と持たない学部がある。

音楽学院もそれらの学部の一つであり、前述したようにどちらかというと日本の音楽大学のようなシステムで内容が組まれている。

研究分野としては、音楽学と舞踏学の大きく二つの学科に分かれている。音楽学の学科では、研究分野として、音楽学系、声楽系、ピアノ系、作曲系、管弦楽系に分か

表1 東北師範大学にある学院名と教員養成機能

学院名	教員養成機能
教育科学学院	師範・非師範
政法学院	非師範
経済学院	非師範
商学院	非師範
文学院	師範・非師範
歴史文化学院	師範・非師範
外国語学院	師範・非師範
音楽学院	師範・非師範
美術学院	師範・非師範
数学統計学院	師範・非師範
コンピューター学院	非師範
ソフトウェア学院	非師範
物理学院	師範・非師範
化学学院	師範・非師範
生命科学学院	師範・非師範
都市環境科学学院	師範・非師範
体育学院	師範・非師範
伝媒科学(メディア)学院	非師範
マルクス主義学院	師範・非師範
国際関係学院	

れており、舞踏学は舞踏系のみとなっている。音楽学の学科では、中学校、高等学校、一般社会での音楽教師あるいは音楽関係の専門家を養成することを目的としており、舞踏学の学科では、振付師、ダンス教師、ダンス教育の専門家の養成を目的としている。また、音楽学の学科においては、それぞれの研究分野で教員養成機能を持つコース(師範)と持たないコース(非師範)があるが、基本的に学部を卒業すると、小学校・中学校・高等学校の音楽教員になることもできる。

以上のように、主たる目的が教員養成だけではなく、教員養成と音楽分野の専門家養成という大きな2本柱で存在している。また、留学生へのインタビューによると、日本で言うような教員免許状というものはなく、大学を卒業しそれぞれの学校単位の採用試験に合格すれば、教員として従事することができる。

大学院においても学部同様の専門分野が用意され、その中でも同様に教員養成機能を持つ師範のコースと持たない非師範のコースに分かれている。また、大学院を修了すると大学等の音楽担当教員として従事することができる。

2. 各大学の音楽関係カリキュラムの比較と分析

表2は、岡山大学教育学部・教育学研究科(音楽教育)、東京藝術大学音楽学部・音楽研究科、東北師範大学音楽学院における音楽関係の学部・学科・研究分野についての概要を示したものである。

表2のように、今回事例としてあげた3つの大学が、それぞれに異なった構造で、音楽教員養成を行っているという実態を読み取ることができる。その特徴としては、第一に、研究分野に関する構造と、第二に、教員養成機能、すなわち免許状取得等のシステムの違いにあると考えられる。

第一の研究分野に関する構造に関して、岡山大学教育学部・教育学研究科(音楽教育)においては、教員養成という目的のとおり、研究分野としては音楽教育が専門分野である(その中に、それぞれの得意分野を生かすことができる)。一方で、東京藝術大学音楽学部・音楽研究科および東北師範大学音楽学院においては、音楽に関わるそれぞれの研究分野が専攻として独立しており、音楽に関する専門家を養成することと音楽教員を養成することを、システム上分けて行っている。つまり、後者においては音楽のそれぞれの研究分野に関する専門家になりたいのか、またはそれぞれの研究分野の専門的知識を有した音楽教員になりたいのかによって、専攻を選択することができるという点にある。

第二の特徴である、教員養成機能すなわち免許状取得等のシステムの違いについてであるが、表2のとおり、岡山大学教育学部・教育学研究科(音楽教育)においては、ほぼ卒業・修了と同時に免許状を取得する。一方、東京藝術大学音楽学部・音楽研究科においては、希望者のみが取得する。また、東北師範大学音楽学院においては、教員免許状というものはなく、第一の特徴で述べた研究分野の選択によって、教員養成系(師範)か音楽の専門家養成系(非師範)のコースをさらに選択することができる。

今回分析対象とした大学は、一事例に過ぎないが、以上のような大きく2つの視点から、それぞれの大学の音楽教員養成に関するカリキュラムが異なっていることがわかるだろう。そして、現在、交換留学等に関わって、研究分野の選択に関して生じている問題の要因の一つが、ここにあると考えられる。

表2 岡山大学, 東京藝術大学, 東北師範大学(中国)における音楽関係の学部・学科・研究分野について

	岡山大学教育学部・教育学研究科			東京藝術大学音楽学部・音楽研究科			東北師範大学(中国) 音楽学院			
	学部・学科	研究分野	教員養成機能	学部・学科	研究分野	教員養成機能	学部・学科	研究分野	教員養成機能	
学部	小学校教育コース 音楽専修 中学校教育コース 音楽専修	音楽教育 (音楽教育学, 音楽学, 器楽, 声楽, 作曲)	卒業要件に必要な単位を修得すれば, 主免許状としてそれぞれ小学校, 中学校(音楽)の一種免許状を取得することができる。	作曲科 声楽科 器楽科 指揮科 邦楽科 楽理科 音楽環境創造科	作曲 声楽 ピアノ, オルガン, 弦楽, 管・打楽器, 室内楽, 古楽 指揮 邦楽 楽理	音楽教員免許取得希望者は, 規定の単位を修得すれば, 免許状を取得することができる。 中学校教諭一種免許状(音楽) 高等学校教諭一種免許状(音楽)	音楽学 舞踏学	音楽学系 声楽系 ピアノ系 作曲系 管弦楽系 舞踏系	師範 師範・非師範 師範・非師範 師範 非師範 非師範	卒業すれば, 小学校, 中学校, 高等学校の音楽教員になることができる。 (教員免許状というのはなく, 卒業証書が免許のようなものとなる。また, 教員採用は学校単位で実施される)
大学院(修士)	教科教育学専攻 音楽教育コース	音楽教育 (音楽教育学, 音楽学, 器楽, 声楽, 作曲)	所定の単位を修得すれば, 小学校, 中学校(音楽)の専修免許状を取得することができる。ただし, 取得しようとする免許状の一種免許状を取得済みのこと。	作曲 声楽 器楽 指揮 邦楽 音楽文化学	作曲 独唱, オペラ ピアノ, オルガン, 弦楽, 管打 楽, 室内楽, 古 楽 指揮 三味線音楽, 箏 曲, 尺八, 能楽, 能楽囃子, 邦楽 囃子, 日本舞踊 音楽学, 音楽教 育, ソルフェー ジュ, 応用音楽 学, 音楽文芸, 音楽音響創造, 芸術環境創造	音楽教員免許取得希望者は, 規定の単位を修得すれば, 専修免許状を取得することができる。 中学校教諭専修免許状(音楽) 高等学校教諭専修免許状(音楽)	音楽学 舞踏学	声楽 ピアノ 音楽教育 作曲 MIDI・コンピュー ター音楽制作 ソルフェージュ 中国音楽史 外国音楽史 民間音楽学 舞踏	師範・非師範 師範・非師範 師範・非師範 非師範 師範	卒業すれば, 大学の教員になることができる。

IV. 音楽学習者の進路

教員養成系大学の卒業生と、藝術大学・音楽大学の演奏系の卒業生では、自ずと活躍の場が異なると考えられる。しかしながら、それを実証するのはそう簡単なことではない。

本論では、2つのデータを検討した。1つは、東京文化会館での小ホールを使用した演奏家の出身校、他の1つは、教員養成系大学である岡山大学教育学部音楽教育講座の卒業生の就職状況である。

演奏家の音楽学習歴は、伝記作家だけでなく、音楽学者や音楽教育学者にとっても重要な情報である。しかしながら、世界的ビルティオゾの演奏家ならともかく、現在に生きている日本の演奏家については、プライバシーの問題もあり調査はそう簡単ではない。そこで、演奏家が不特定多数の他者に向けて発信している音楽会の案内に記載したプロフィールを利用することにした。これならば、演奏家が自ら公にしたものであるから、プライバシーを犯す心配はないだろう。

音楽会の案内は「チラシ」とか「フライヤーfler」と呼ばれている。音楽会の広告・宣伝のための印刷物である。音楽ファンは、音楽を聴くために訪れた音楽会場で、別の音楽会のチラシを配布され、聴くに値すると思ったらそのチケットを購入する。通常A4の用紙の片面または両面に情報が掲載されている。チラシには定まった書式などはなく、デザインはそれぞれ個性あふれるものになっている。情報としては、キャッチコピー、ポートレート、開催日時、場所、地図、チケット代、ジャンル、演目などのほか、演奏家のプロフィールが掲載されていることがある。さらに、まだ世に名前の知れ渡っていないデビューしたての若手の演奏家は、必ずといってよいほど音楽学習歴と受賞歴を掲載している。クラシックファンなら誰もが知っている中村紘子のような有名なピアニストや、N響の首席奏者なら、音楽学習歴はアピールする必要もないであろうが、新たに聴衆を獲得しようとしている若手演奏家にとっては音楽学習歴は発信に値する重要な情報である。

チラシの調査分析は、以下の理由から、日本有数の音楽会場である東京文化会館の2009年12月と2010年1月の公演を対象とした。

東京文化会館は1961年に開館した。大ホールではオペラ、バレエ、オーケストラなど大規模な公演が、小ホールでは室内楽やリサイタル等の小規模な公演が行われている。会館では、大ホールはクラシック音楽・歌劇・舞踊の公演等、小ホールはクラシック音楽の公演等というように、ホールの主用途をクラシックに限っている。

東京文化会館の主催公演「コラボレーションコンサート」「舞台芸術創造プログラム」「東京音楽コンクール」「東京音楽コンクール優勝者コンサート」「モーニングコンサート」「オペラBOX」などは、もちろん水準が高い音楽会といえる。外部から使用申し込みをする自主公演は、東京文化会館利用選考分科会での専門家による選考を経て、使用承認得ている。主催公演も自主公演も、それなりの高水準を保っていると考えてよいであろう。

2009年12月3日に東京文化会館を訪れ、エントランスホールに置いてある都内の音楽会のチラシの中から、同会館小ホールで行なわれる2009年12月と2010年1月の公演のチラシを収集し、分析の対象とした。2009年12月の31公演のうち、落語とのコラボレーションおよびコーラスなど出演人数が多い大規模な公演は省いた。後者は、チラシに出演者全員のプロフィールが掲載されていないからである。12月中8公演、1月の9公演は、チラシが置いてなくて入手できなかった。それらは表では斜線を引いてある。最終的に12月の20公演(表3)と、1月の15公演(表4)を検討した。

出身校が掲載されているチラシは、12月は20公演中11、1月は15公演中11あった。どちらも過半数である。出身校は12月は藝術大学5名、音楽大学9名、1月は高校音楽家科1名、藝術大学3名、音楽大学12名である。殆どが藝術大学または音楽大学の出身である。また、留学経験のある者も多い。ただしこの中には、藝術大学や音楽大学の演奏科出身ではなく、音楽教育学科の出身者もいる可能性もある。いずれにしても、〇〇大学教育学部や〇〇教育大学などの教員養成系大学の出身者はいない。

では、教育学部や教育大学で音楽を学んだ人は、活躍の場がないのであろうか。

教員養成系大学の卒業生の進路状況の一事例として、筆者が勤務する岡山大学教育学部音楽教育講座を取り上げる。表5は、1978年から1987年の10年間の卒業生が、2007年現在何名ぐらい小中学校や教育委員会などの学校関係で仕事を続けていたかを表わしたものである。ちなみに、1978年は新東京国際空港が開港した年で、1987年は国鉄が民営化した年である。

年度によってかなりばらつきがあるものの、70%台、60%台もあり、かなりの多数の卒業生が、卒業後20年間も30年間も教育現場で活躍し続けていることがわかる。

これら、2つのデータは、いわゆる「同じ土俵」のデータではないので、両者を単純に比較するわけにはいかない。また、藝術大学や音楽大学で音楽教育学を学ぶこ

表3. 2009年12月の演奏会チラシにおける演奏家の学習歴

日	音楽会の名称	演奏者の出身校	留学経験
1	舘野泉ピアノリサイタル2009		
2	東京シンフォニエッタ第26回定期演奏会「先鋭的な名技性」		
3	フォーレ四重奏団演奏会		
4	マチュー・デュフォー フルート・リサイタル		
5	河野克典バリトンリサイタル ～歌の旅 vol.1～		
6	プレイアード五重奏団結成30周年記念リサイタル	音楽大学	—
	建孝三ギターリサイタル	—	—
7	木越洋の立って弾くチェロ vol.12 ～J.S.バッハ・無伴奏チェロ組曲全曲演奏会～	—	—
9	東京文化会館モーニングコンサート Vol.32	音楽大学	—
11	舞台芸術創造プログラム「隅田川」&「万葉集」	芸術大学	—
12	舞台芸術創造プログラム「隅田川」&「万葉集」	芸術大学	—
13	川井善晴ギターリサイタル	—	有
16	日本モーツァルト協会12月例会「ロンドンの師クリスティアン・バッハ」		
17	齋藤行クラリネットリサイタル(第25回)	音楽大学	有
19	演連コンサート216 豊永美恵クラリネットリサイタル	音楽大学	—
	西畑正三フルートリサイタル Vol.15	芸術大学	有
20	クリスマス・スペシャル・コンサート「浦山純子 with Friends」Vol.1	音楽大学	有
	東京メトロポリタン・トロンボーン・カルテット 第3回レギュラーコンサート	A音楽大学 B芸術大学 C音楽大学 D音楽大学	A— B— C— D有
21	神谷満実子おしゃべり音楽会 PART12 冬の夜	—	—
22	クラシカル・プレイヤーズ東京 バロック de クリスマス		
23	小林道夫チェンバロ演奏会	—	—
	ブルーム・クアルテット&アンサンブル		
24	ジャン・ジェンホワ(姜建華)二胡リサイタル	—	—
25	田中淑恵メゾ・ソプラノリサイタル	芸術大学	有
26	和波たかよし クリスマス・バッハ・シリーズ XVIII	—	—
27	橋本京子ピアノリサイタル	音楽大学	有
	飯塚優子が贈るオペラハイライト3	—	—
31	ベートーヴェン弦楽四重奏曲9曲演奏会	—	—

日中の音楽教員養成に関するカリキュラムについて

表4. 2010年1月の演奏会チラシにおける演奏家の学習歴

日	音楽会の名称	演奏者の出身校	留学経験
4	うたのひととき ソプラノ岡野登喜江 珠玉のオペラ・アリアを歌う！！PART X II	—	—
5	東京文化会館モーニングコンサート Vol. 33	高校音楽科在学	—
	藤井一興ニューイヤール・ピアノリサイタル	—	—
6	アテフ・ハリム ヴァイオリンリサイタル		
7	佐伯周子ベーレンライター新シューベルト全集に拠るピアノソロ曲完全全曲演奏会 Vol. 7	—	—
8	永岡信幸ピアノリサイタル	音楽大学	有
9	犬飼新之介ピアノリサイタル (東京音楽コンクール入賞者リサイタル)	音楽大学	有
11	吉岡孝悦ニューイヤールマリンバコンサート	音楽大学	有
12	寺田まり ショパンとシューマン生誕200周年記念リサイタル	海外の音楽大学	有
13	木越洋の立つて弾くチェロ Vol. 13～ベートーヴェン・チェロソナタ全曲演奏会 II～	—	—
14	藤井菜穂子フルートリサイタル Vol. 11	藝術大学	—
15	第4回 形式からの飛翔	音楽大学	—
16	栗原利佳 ニコラ・ロッシン・ジョルダノ デュオリサイタル	音楽大学	有
17	都響メンバーによる室内楽トークコンサート		
18	モルゴア・クアルテット第32回定期演奏会		
19	ブラス・ヘキサゴン・コンサート	A 藝術大学 B 藝術大学 C 音楽大学 D 音楽大学 E — F 音楽大学	A 有 B — C 有 D — E — F 音楽大学
21	都民芸術フェスティバル室内楽シリーズNo.9 田部京子「室内楽の夕べ」		
22	日本テレマン協会定期演奏会 第192回公演		
23	鈴木愛理ヴァイオリン・リサイタル		
	オットー・ウインズ2010～管楽重奏による室内楽の魅力～		
24	城代さや香ヴァイオリンリサイタル	音楽大学	有
25	ロンドン交響楽団ブラス・クインテット		
27	日本モーツァルト協会1月例会「ディヴェルティメントの楽しみ」		
30	森下幸路ヴァイオリンリサイタル	音楽大学	有
31	新倉瞳チェロリサイタル～ショパンその愛～	音楽大学	—

表5 音楽教育講座卒業生の学校関係就業率
(小数点以下四捨五入)

過程 卒業年度	小学校教員 養成課程	中学校教員 養成課程
1978年	72%	36%
1979年	67%	40%
1980年	64%	22%
1981年	50%	14%
1982年	74%	44%
1983年	42%	50%
1984年	50%	14%
1985年	67%	38%
1986年	56%	14%
1987年	33%	29%

とも可能であるし、逆に、教員養成系大学出身でもステージ・プロとして活躍している人もいる。さらに、大阪教育大学のように「教員養成課程の音楽教育講座」と「教養学科の芸術専攻音楽コース」の2つの異なる教育システムを持つ教員養成系大学もある。それらを考慮にいれたとしても、リサイタルを開催するという活動をおこなうのは芸術大学や音楽大学で学んだ「音楽をする人」が多く、教員養成系大学出身の「音楽をする人」は、教員として活躍することが多いということを再確認した。教員養成系大学と芸術大学や音楽大学の教育内容の違いがこのような現状の違いを生み出していると言えないが、教員養成系大学の卒業生が音楽教員としての活躍し続けているのは、まさに教員養成系大学の教育目的や教育内容と合致している。

V. 有意義な学びをめざして

音楽を学びたいと希望する留学生にとって、最も望ましいことは、将来の人生設計に合った「学びの場」に出会うことである。人生設計に役立つ「学びの場」と言い換えてもよい。自分がどのような「音楽をする人」にな

りたいかによって、進むべき「学びの場」を選択すべきである。

IおよびIIにおいて前述したように、現在、O-NECUSプログラムの双方向学位（ダブルディグリー）制度や短期留学（単位互換）制度による交流が始まっている。2009年度には、教育学研究科教科教育学専攻音楽教育コース（修士課程）でも、東北師範大学音楽学院との間で、それぞれ1名の院生を短期留学生として交換している。留学生にとって、教育学研究科教科教育学専攻音楽教育コースが自分に合った「学びの場」であるかどうかを検討するためにも、同音楽教育コースの教育目的や教育内容についてさらなる発信を続けていく必要があるであろう。

本論は2009年10月に中国吉林省長春市の東北師範大学と吉林大学で開催されたO-NECUSシンポジウムに参加した早川倫子と山本宏子の共同執筆である。I～IIIは早川が、IV～Vは山本が執筆している。

最後になったが、シンポジウム合間を縫って、東北師範大学音楽学院の教育内容についてさまざまな情報をお教えいただいた金士友教授に感謝の意を表したい。

参考資料・参考サイト

- 岡山大学教育学部 案内2010 パンフレット
平成22年度岡山大学大学院教育学研究科 案内パンフレット
東北師範大学音楽学院 院史パンフレット
東京藝術大学ホームページ 音楽学部・音楽研究科
<http://www.geidai.ac.jp/music/index.html>, 2009年12月11日参照
東北師範大学ホームページ <http://www.nenu.edu.cn/>, 2009年12月11日参照
東北師範大学音楽学院ホームページ
<http://music.nenu.edu.cn/>, 2009年12月11日参照
東京文化会館ホームページ <http://www.t-bunka.jp/>
2009年12月15日参照

Title: A Case Study of Curricula for Music Teachers Training in Japan and China

— Okayama University, Tokyo University of the Arts and Northeast Normal University —

Rinko HAYAKAWA (Graduate School of Education Okayama University)

Hiroko YAMAMOTO (Graduate School of Education Okayama University)

Keywords: Music Teachers Training, Music Curricula, Japan and China, O-NECUS, Students Studying abroad